

## 中部・北陸ブロック 事例集

Ref#	社会的企業名（順不同）	ページ
#27	認定特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター	2
#28	特定非営利活動法人アスクネット	4
#29	特定非営利活動法人こどもNPO	6
#30	特定非営利活動法人 ing	8
#31	特定非営利活動法人ファミリーステーション Rin	11
#32	ヤマハ発動機株式会社	13
#34	特定非営利活動法人 G-net	15
#35	特定非営利活動法人子ども&まちネット	17

#33 については別添の「評価の高かった事例」を参照のこと。

## #27【基礎情報】

法人名	認定特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター
氏名	キム ナムユン 名和 真未
事業概要	日本国内外の聴覚障害者（児）及び広く一般の人々に対して、聴覚障害者（児）支援に関する人材育成や情報提供、国際交流支援に関する事業を行い、聴覚障害者（児）の日常生活や就労などにかかる問題の改善や解決を図ることにより、聴覚障害者（児）及び社会全体の福祉の向上と増進に寄与することを目的とする。
業歴	2012年12月設立 2016年8月認定NPO取得 2012年～現在 日本手話教室開催 外国人・日本人聴覚障害者のための日本語教室開催 2015年7月6日 NHK ハートネットTV「キムさんの日本語教室」放映 2017年1月14日 NHK ろうを生きる難聴を生きる「もう一度学びたい ろう者が通う日本語教室」放映

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

《目的》

団体や事業内容を外部に分かりやすく説明するため。

《活用法》

外部に説明するときや紹介するときに使用。

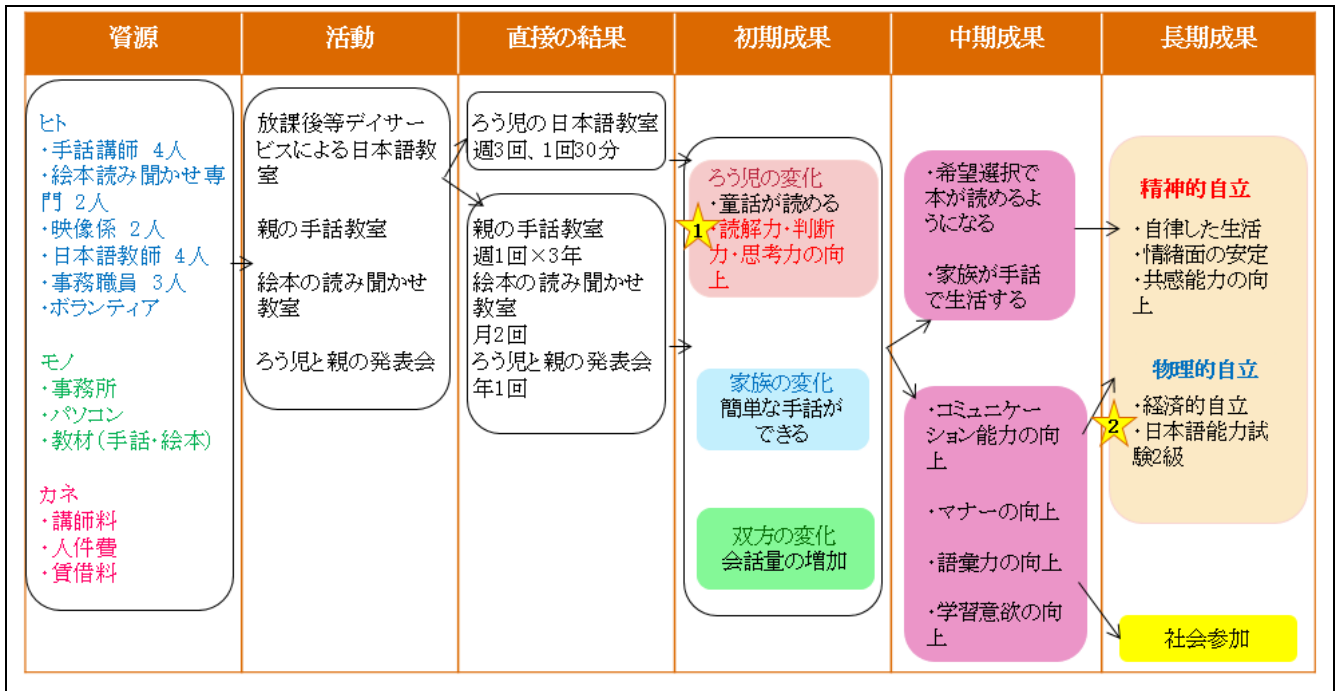
## 【事業目標】

耳が聞こえない人が誰とでも意思疎通ができるようになること。

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
ろう児	A	一番の受益者だから
聞こえるお母さん・聞こえないお母さん	A	お母さんの努力が子供に一番の影響を与えるためお母さんが必要不可欠
ろう児の家族	B	共に生活をし、支える立場にあるから

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
・読解力の向上	・自社制作の読解力テスト点数 (80 点以上)
・日本語能力試験 N2 合格	・合格率の増加

【ロジック・モデル作成のメリット】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果がわかる。</li> <li>・目標を共有することができる。</li> </ul>
---

## #28【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人アスクネット
氏名	代表理事 白上 昌子 山本 和男 城取 洋二
事業概要	小学校から大学まで学校におけるキャリア教育のサポートとして、キャリア教育プログラムの企画・運営、インターンシップ等の体験活動のコーディネートを中心に活動している。また、学校と地域をつなぐキャリア教育コーディネーター育成として講座を開催している。その他、愛知サマーセミナー等の教育イベントの実施。
業歴	1999年、愛知私学教育ネットとして教育イベント支援を事業として事業開始。2001年、愛知市民教育ネットに改名し法人化。社会人講師を学校に派遣する市民講師ナビ事業を中心に活動を展開。2004年、第1回教育コーディネーターフォーラム開催。2006年、教育CSR推進事業開始により、アイシン環境学習を三河エリアの小学校にてスタート。アスクネットに改名。2008年、経済産業省「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業」受託運営（中核コーディネーター）。2009年～11年愛知県「ふるさと再生雇用基金人材育成コーディネート推進事業」受託運営。2014年、第3回キャリア教育アワード経済産業大臣賞受賞。

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

## 《目的》

自分たちの活動が社会に対して価値を生み出しているかどうか？

生み出しているのであればどの程度なのか？を認識し、より価値を生み出していくためには、どのようにしていくかを再検討するため。

組織内部で社会的インパクトに係る戦略と結果を共有し、事業・組織に対する理解を深め、意思決定の判断材料を提供することで、事業運営や組織のあり方を改善するために行う。

## 《活用法》

社会的インパクトを最大化するために、事業の改善や資源配分の意思決定に活用する。

ロジック・モデルを現在作成中である中期ビジョンに活用する。

## 【事業目標】

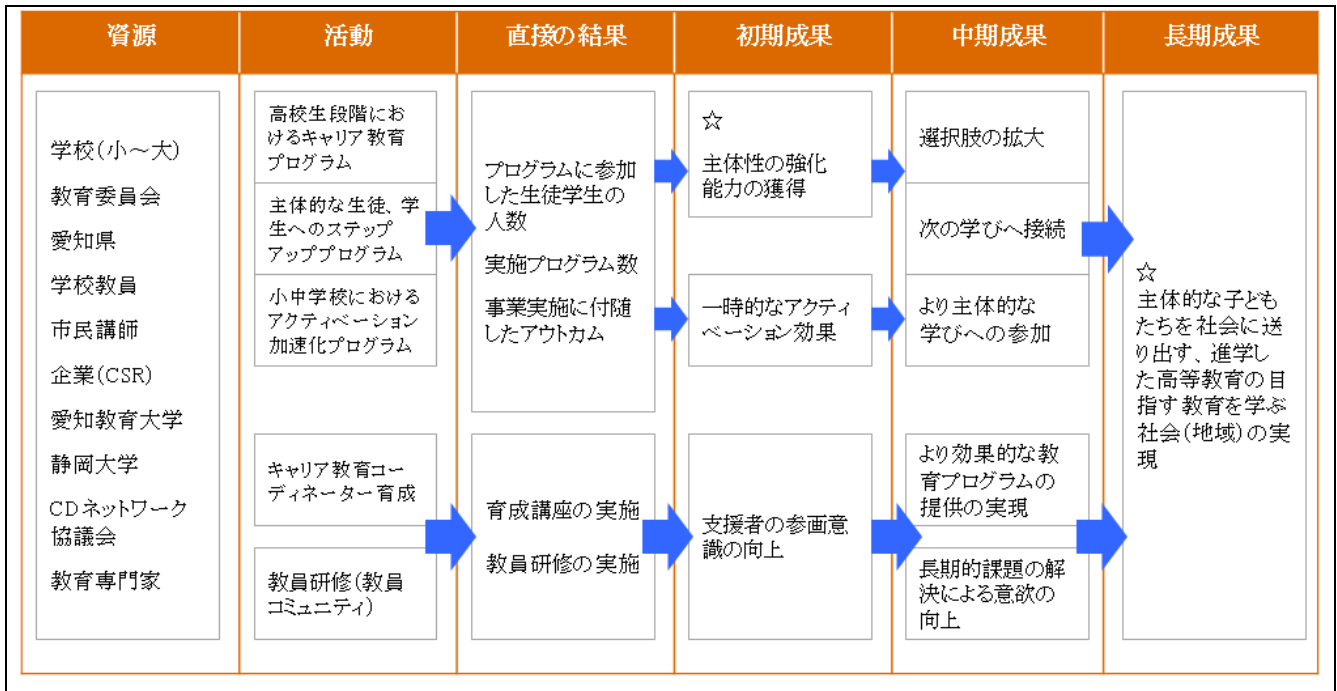
学びあい育ち合う共同体づくり実現のため、アクティベーション（起動）された子どもたちを社会に送り出す。

**（2022年までに）主体的な18歳を社会に送り出す仕組みの構築と実現**

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
児童、生徒	A	愛知県内の学校（小中高）に通う児童、生徒
教員	B	支援者育成
一般社会人 （キャリア教育コーディネーター）	B	支援者育成
生徒、学生	B	主体的な生徒、学生へのステップアッププログラム
企業・法人（ステークホルダー）	C	教育資源の提供

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
①主体的な子どもたちを社会に送り出す、進学した高等教育の目指す教育を学ぶ社会(地域)の実現	実現した地域数と受益者数、講座数
②主体性の強化、能力の獲得	「アクティベーション指標(質)」(検討中) ※「主体的な18歳」の基準のこと

【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・事業目標へのマイルストーンが明確になる。
- ・事業ごとの成果をまとめやすくなる。

## #29【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人こどもNPO
氏名	山田恭平 伊藤暁 青野桐子
事業概要	名古屋市緑区大高南地区における子どもの社会参画推進事業
業歴	2001年 NPO法人化 2003年 子どもの社会参画推進拠点 ピンポンハウス 子育て支援なごやつどの広場事業 2006年 県営住宅での子どもの居場所づくり・無料塾 2008年 名古屋市緑区児童館指定管理 2012年 名古屋市中川児童館指定管理 緑区子育てネットワーク事業・大高南拠点 2013年 名古屋市生活困窮家庭の子どもの学習支援 2014年 大清水拠点 学び場づくり事業 2015年 名古屋市子ども・子育て支援センター運営受託 2016年 こどもとつくる子ども食堂 さばんなかふえ

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

## 《目的》

現場感覚による自己評価・内部評価ではなく、成果に基づく社会的評価の指標を明確にすること。

## 《活用法》

- ・成果目標や成果指標を意識した事業設計や運営、組織の在り方などの改善に活かすこと。
- ・成果を生み出すために必要な支援者スキルを明確にし、コンピテンシーリストの作成につなげること。
- ・団体内での共通認識、共通言語の確立と、一人ひとりが目的と役割を意識して行動し、よりよい支援や取り組みにつなげること。

## 【事業目標】

## 【名古屋市緑区大高南地区における子どもの社会参画推進事業】

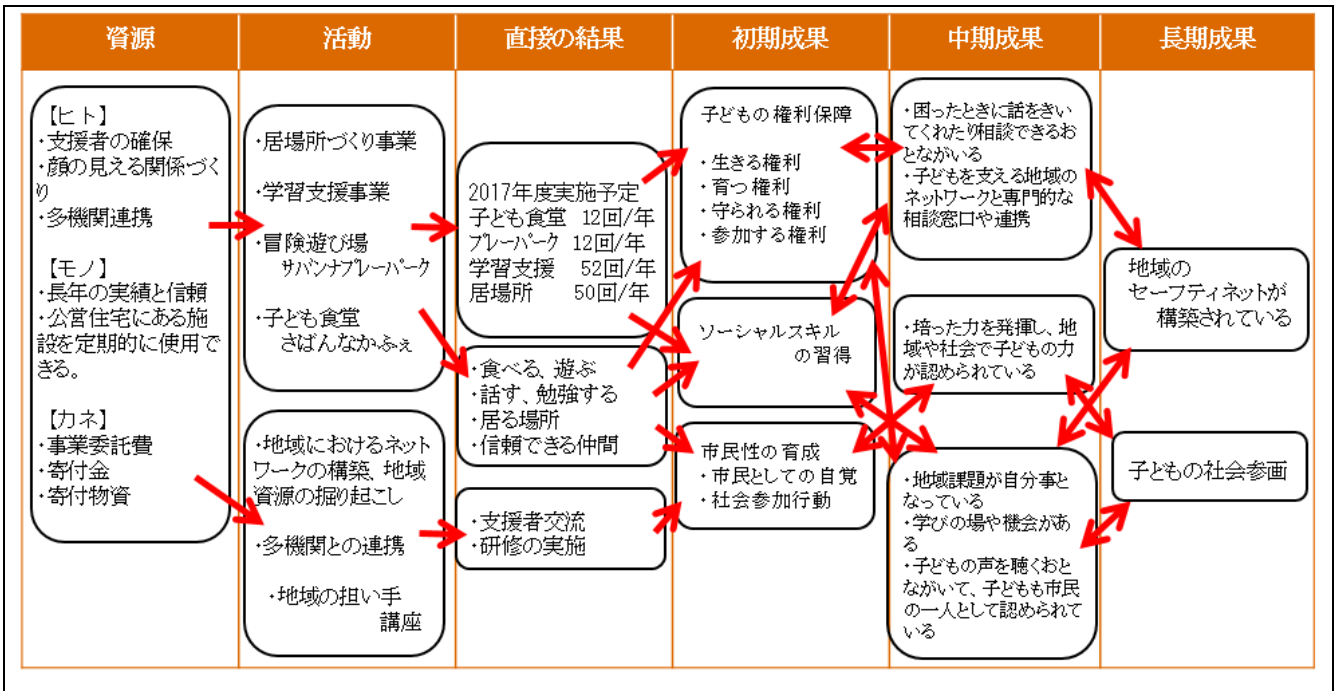
生活に困りごとを抱える子どもたち多い大高南学区において、子どもたちが生まれ育つまちに愛着を持ち、住みやすいまちや社会づくりのための取り組みに参画できるようになる。

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
・大高南学区やその周辺に暮らす子ども（0～18歳）	A	社会参画の当事者
・子どもの親、保護者（家庭）	B	子どもと同様、親も社会参画の当事者であり、子どもの育ちに最も影響力をもつ存在
・地域のおとな	B	子ども・親と同様、地域のおとなも社会参画の当事者であり、子どもが地域で育つために不可欠な存在

掲載されているロジック・モデル等はあくまで社会的企業向け実践研修の中で参加者が作成したものであり、必ずしも社会的企業の公式見解を示すものではない。今後、継続的に見直しを行い、改善していくことが期待される。

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
①ソーシャルスキルの習得	<p>→以下の視点において</p> <p>子どもたちの変化を測定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情</li> <li>・対等なコミュニケーション</li> <li>・アサーション</li> <li>・肯定的な態度</li> <li>・聞く姿勢</li> <li>・合意形成</li> <li>・対立解決</li> <li>・社会的提言</li> </ul>
②子どもの社会参画	<p>→現場で生まれる具体的な</p> <p>子どもの社会参画モデルの事例収集</p>

【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・ 各拠点において、中、長期ビジョンを描くことができる。
- ・ 成果や達成状況が明確にでき、課題整理や事業計画の見直しや反映ができる。

## #30【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人 ing
氏名	松岡 万里子
事業概要	高齢者の生きがいと健康維持のための外出支援を養成講座 修了生「お出かけ見守り隊」により実施。家族、地域、医療、福祉事業者等との連携により、地域包括ケアシステムのネットワークの一端を担う市民活動として展開。本人・家族の支援を自らの老いと死を学ぶ生涯学習とし、「寄り添うところ、人の杖」をモットーに心の通った地域福祉を实践。
業歴	平成 5 年 12 月団体の前身「ing 自分育ての会」発足 平成 15 年 4 月法人格取得「特定非営利活動法人 ing」発足 <以下本事業関連のみ記載> 平成 26 年 2 月「安城市市民活動補助金対象事業」採択 平成 26 年 4 月「愛知の課題深掘りファンド」（あいちコミュニティ財団）地域ニーズヒアリング調査・先進地見学実施 5 月～事業推進会議開始、9 月～養成講座開催 平成 27 年 1 月～結成準備会議開始、 5 月「お出かけ見守り隊」結成、事業開始 平成 27 年 6 月「コープあいち福祉基金 A コース」採択 *実績平成 27 年 5 月～平成 28 年 1 月 依頼件数 270 件 見守り隊員 18 人 見守られ会員 20 人 月平均 30 件

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

## 《目的》

高齢者の生きがい、健康維持のための外出支援、“お出かけ見守り隊”の事業において事業の運営、組織の在り方の改善及び、外部に対する結果や得られた成果の開示に役立てるため。

## 《活用法》

1. 団体内においては
  - ①活動の意義、成果の共有によるやりがいの維持、一体感を生み出す。
  - ②運営の在り方、経費の配分の見直しに役立てる。
  - ③活動内容、目標の共有。
2. 対外的には
  - ①連携する関連機関や事業所に対しわかりやすく成果を開示。
  - ②活動の共感を呼びやすくなり実践したい人材や寄付が集まりやすくなる。
  - ③時代に必要とされている社会的価値の発信が可能。



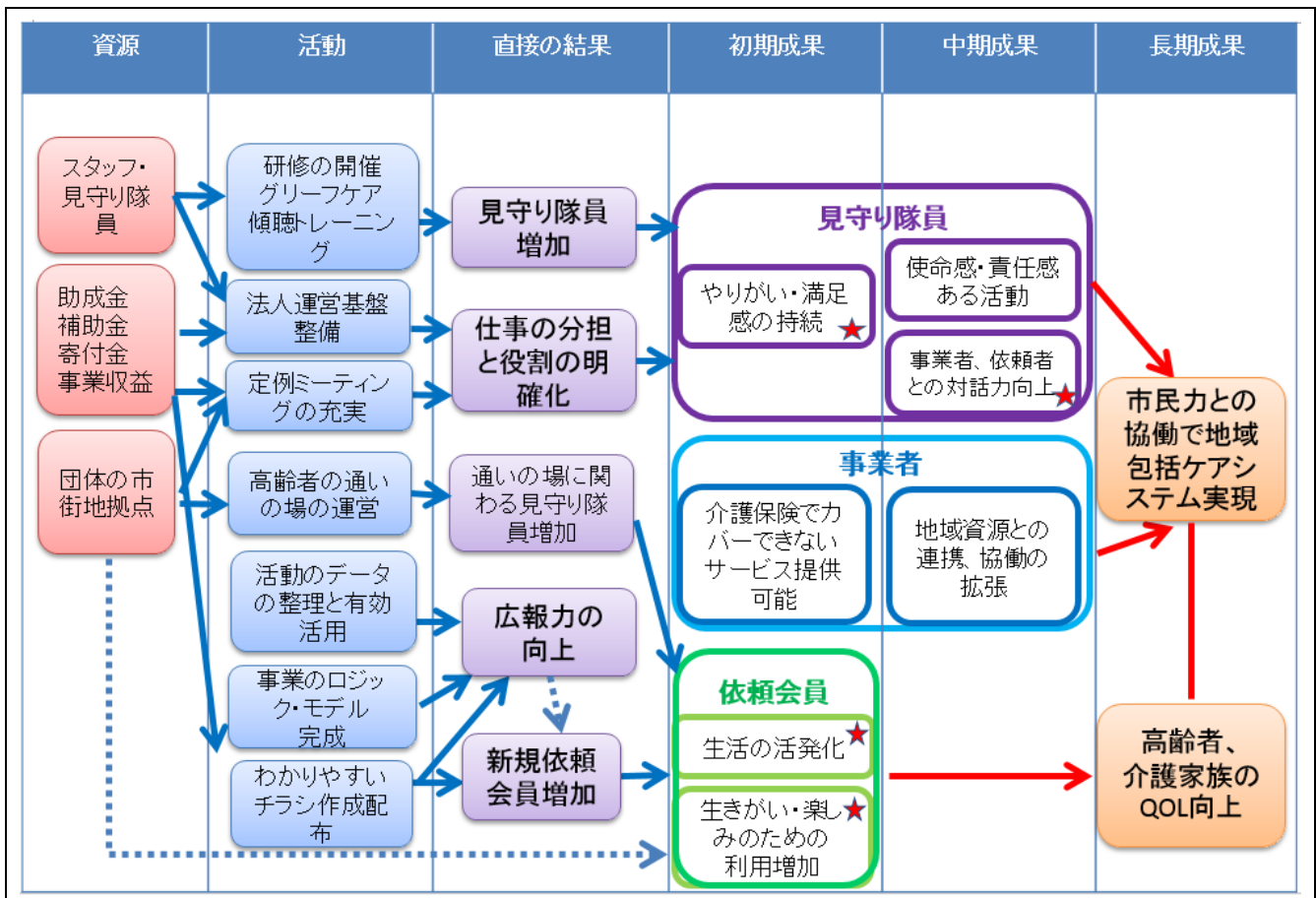
## 【事業目標】

在宅高齢者が豊かな人生を最期まで送ることが出来るような真の地域包括ケアシステムの構築

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
外出不安、困難を抱える高齢者	A	外出できること、人と交流したいと思う気持ちが生きがいにつながる
軽度認知症発症者	A	外出するのに理由があり願いをかなえることで尊厳と健康を保てる
介護家族	B	安心して生活、仕事ができ、抱え込まない介護で笑顔を増やすことが在宅介護のかなめであるため
見守り隊員	C	人生の予習としてわが身に置き換え学ぶことができる
事業者（介護・医療・福祉）	C	介護保険で在宅と施設利用のはざままでサービスが見つからない人へのつなぎサービスとして利用が必要

## 【ロジック・モデル】



掲載されているロジック・モデル等はあくまで社会的企業向け実践研修の中で参加者が作成したものであり、必ずしも社会的企業の公式見解を示すものではない。今後、継続的に見直しを行い、改善していくことが期待される。

## 【成果指標】

成果	成果指標
1. 利用者の生活の活発化	利用者との会話の量を活動報告書にてスケール表示
2. 生きがい・楽しみのための利用	利用件数からの内容の抽出
3. やりがい・満足感の持続	満足度アンケート調査
4. 事業者、依頼者との対話力向上	インテークに臨める隊員数

## 【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・事業をわかりやすく端的に四方（団体スタッフ、見守り隊員、依頼会員、事業者）に説明できる。
- ・将来を見据えた成果目標を意識して団体運営できる。
- ・受益者ファーストで常に成果を思考できる習慣が身に付く。
- ・結果に終わることなくその先の受益者のメリットを念頭に置いて事業の方向性、進捗状況の管理ができる。

## #31【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人ファミリーステーション Rin
氏名	久野明子 磯畑香苗
事業概要	(1) 多様な家族支援事業(一時預かり、日常生活支援、病児・病後児保育、DV シェルター、カウンセリング事業等) (2) 子どもの健全育成に関する事業(子育て広場、子どもの遊びの広場、子どもの居場所づくり等) (3) 情報収集・整備・提供事業(相談者に伴走するシステム作り) (4) 各種ボランティアの養成・研修 (5) 次世代育成支援のための広報事業 (6) 次世代育成支援のための企画事業 (7) 次世代育成支援のための調査研究・政策提言事業
業歴	2004年 NPO 法人格取得 2005年 事務局 OPEN、つどいのひろば事業開始、情報提供事業開始 2007年 につしん子育て総合支援センターの指定管理者となる(~2021年) 2011年 親子サークル Ma-Rin CLUB スタート 2015年 産後サポート事業立ち上げのための活動を開始 2017年 4月より利用者支援事業、産後サポート事業開始予定

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

«目的»

## 事業分析

«活用法»

- ・新規事業の道筋について検討付けをする。
- ・自治体や地域住民、法人の支援者への提案資料・報告資料として使用する。

## 【事業目標】

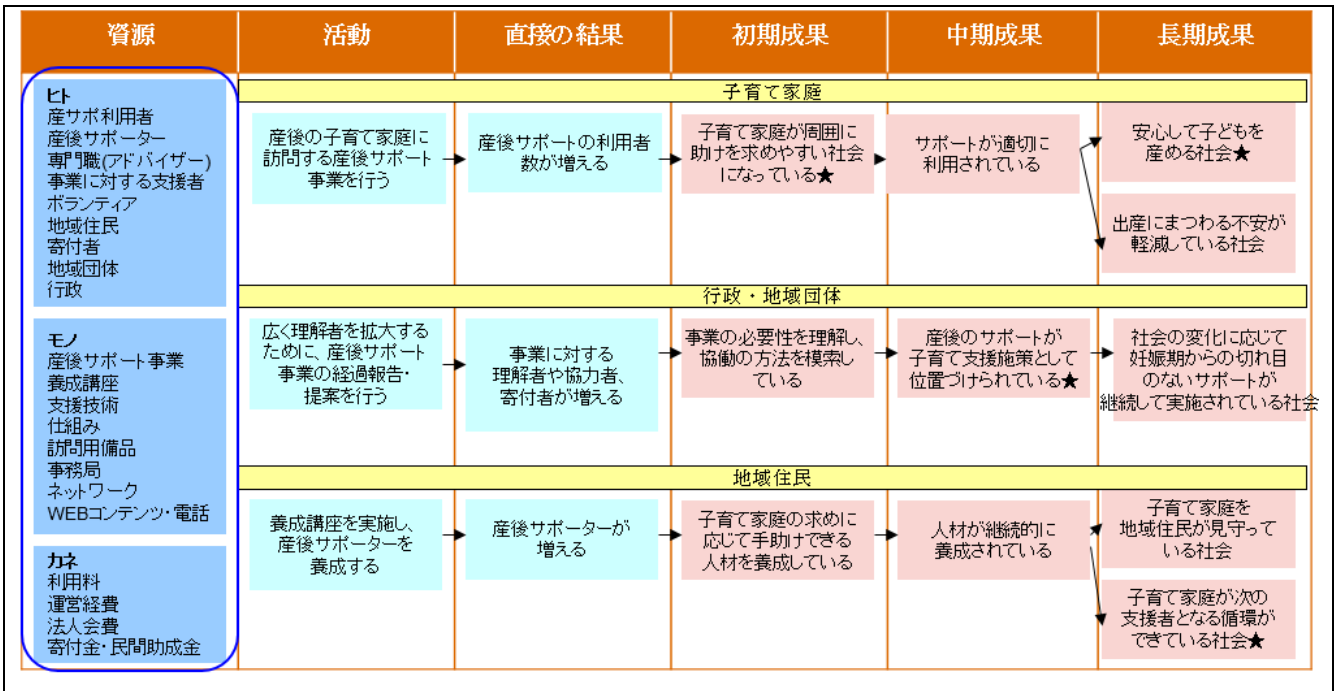
安心して子どもを産み育てることのできる環境を整える

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
・出産直後で地域に頼る人のない家庭 ・育児者本人やその家族の一時的な体調不良等で日常生活に手助けを必要とする家族	A	・子育ての仕方がわからない、地域社会の情報が乏しい。 ・日常の家事育児を担当する親の身体的、精神的不安・負担感が大きい。
・行政・地域団体	B	・妊娠期からの子育て支援施策が地域の実情に追いついていない。
・地域住民	B	・子育て家庭が地域の活動に参加しない。 ・地域にどのような家庭が存在しているかが分からない

掲載されているロジック・モデル等はあくまで社会的企業向け実践研修の中で参加者が作成したものであり、必ずしも社会的企業の公式見解を示すものではない。今後、継続的に見直しを行い、改善していくことが期待される。

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を整理することができる</li> <li>・事業の流れ(展望)を検討する資料として役立つ</li> <li>・時代の変化や状況によって、見直しするときの資料となる</li> <li>・協働相手(支援者)等に説明する際の資料となる</li> <li>・内部のスタッフに対しても事業の意図・目的等を伝えやすくなる</li> </ul>	出産前後で困った時に、手伝ってもらえる人はいますか(いましたか)？という問いに対し、「手伝ってくれる人はいないし、サービスは利用しない」と答えた人の割合が少なくなっている※ 法人が報告・提案活動を実施した自治体等のうち、自治体の施策として取り上げられている数 法人内で養成した産後サポーターのうち、かつて産後サポート事業を利用したことのある人の数 出生率と希望出生率との差

【ロジック・モデル作成のメリット】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を整理することができる。</li> <li>・事業の流れ(展望)を検討する資料として役立つ。</li> <li>・時代の変化や状況によって、見直しするときの資料となる。</li> <li>・協働相手(支援者)等に説明する際の資料となる。</li> <li>・内部のスタッフに対しても事業の意図・目的等を伝えやすくなる。</li> </ul>
--

## #32【基礎情報】

法人名	ヤマハ発動機株式会社
氏名	西嶋良介、大石容子
事業概要	二輪車事業（例：オートバイ・スクーター等） マリン事業（例：漁船・船外機・水上オートバイ等） 特機事業（例：スノーモービル・発電機・四輪バギー） 産業用機械・ロボット事業 クリーンウォータープロジェクト
業歴	1955年設立 日本楽器製造株式会社（現ヤマハ株式会社）にてモーター サイクルの生産に着手 1958年 Yamaha de Mexico S.A. de C.V. 設立 海外での販売を開始

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

「目的」

企業活動の判断指標

「活用法」

- ・実施した活動の効果・影響測定
- ・今後実施する活動へのフィードバック（より効果的な活動）

## 【事業目標】

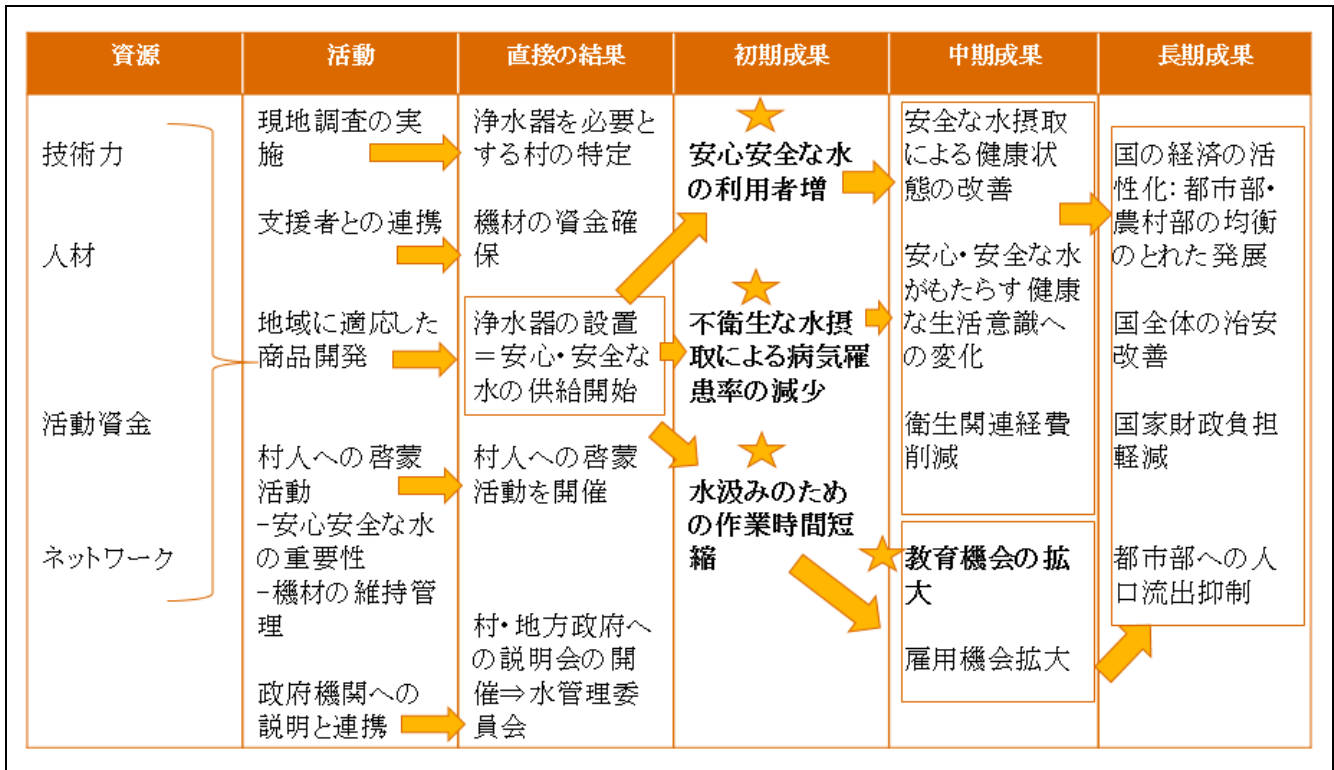
【世界の人々に豊かさ喜びを】

ー浄水器プロジェクトによりアフリカ・アジアの地方に住む村落民に安心・安全な水を供給を通じてー

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
政府の支援が届きにくい村の人々	A	政府の支援が届かないためライフラインである安全な水へのアクセスがないため。
難民キャンプで暮らす人々	A	国際社会からの支援が届きづらく安全な水が届きにくいため。
中央政府・地方政府	B	健康人口増加による経済の活性化と財政負担軽減

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
安心安全な水の利用者増	機材設置後の1日の利用者数の測定
不衛生な水摂取による病気罹患率の減少	設置前後の病院データ比較
水汲みのための作業時間短縮	設置前後の作業時間の測定
教育機会の拡大	通学率データ(学校との合同調査)

【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・長期的視点での企業活動の計画立案。
- ・社会的インパクトを指標とした企業活動の展開。
- ・イノベーションの必要性の認識。
- ・エコシステムによる企業の持続性。

## #34【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人 G-net
氏名	浅野恵美 (インターン事業部) 木村愛 (就職・採用支援事業部)
事業概要	インターン事業 就職・採用支援事業
業歴	2001年 期間限定団体として G-net 立ち上げ 2003年 特定非営利活動法人格取得 2004年 「ホンキ系インターンシップ事業」(長期実践型インターンシッププログラム) 開始 2011年 「逆指名型求人フェア」事業開始 2013年 就職・採用支援事業開始

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

## 《目的》

- ・社会的責任/価値の可視化
  - ステークホルダー (大学、行政、金融機関、企業) の提示
  - 事業戦略を立てるための指標づくり、社内の目的意識統一
- ・組織改革
  - 事業戦略や具体的打ち手の振り返り指標に
  - PDCA を回せる体制

## 《活用法》

- ・経営管理・意思決定
  - どこに人員を割くべきか ・何に時間を割くべきか ・理想のアウトカムから逆算した事業・サービス設計
- ・資源獲得・成長
- ・ファンドレイジング (賛助会員を増やす)
- ・プロボノの獲得 ・大学連携 ・受入企業営業 ・委託事業
- ・年次報告 ・ブランディング

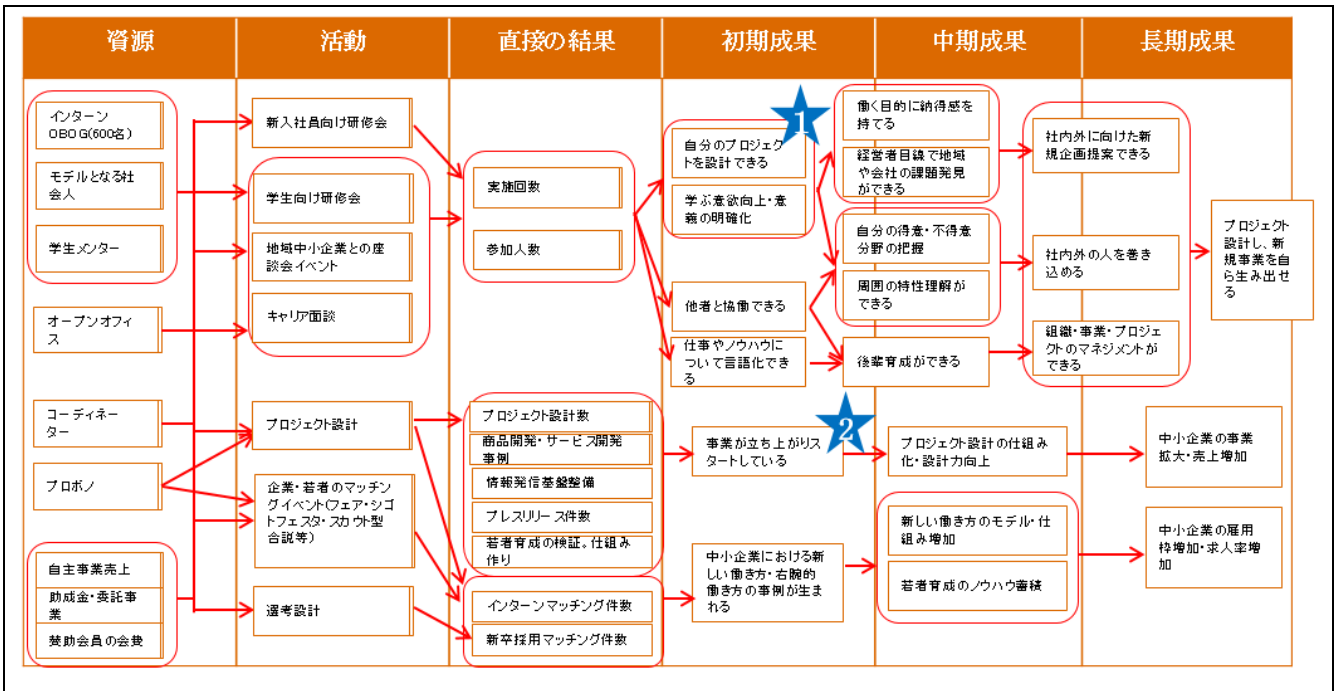
## 【事業目標】

意欲ある若者と地域の魅力的な企業との出会いを生み出し、起業家的人材の育成を通じた地域活性を実現する。  
人が集まる岐阜へ。

## 【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
大学生	A	・今後の地域、社会を担う人材であるから。 ・地域経済を回す事業を創り、人材を育成する立場にあるから。
企業(経営者)	A	
企業(社員)	B	
大学	B	
行政	B	

【ロジック・モデル】



【成果指標】

成果	成果指標
①マイプロジェクトを設計できる	①-1. マイプロジェクトを持っている若者の数 ①-2. 立案されたマイプロジェクトの数
②新しい事業が立ち上がる	②-1. 新規事業が立ち上がった数 ②-2. 新規事業に携わる社員数の数

【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・事業目標に対する成果、という指標を持つことができる。
- ・成果から見て現状の活動が本当に有効なものかを判断することができる。
- ・成果から見て、足りない資源を把握することができる。



## #35【基礎情報】

法人名	特定非営利活動法人子ども&まちネット
氏名	水野真由美 西村 健
事業概要	<p>子どもが健やかに育つまちとは何か、何を備えるべきか、どのようにそれを育ていけばよいかを子ども、若者をはじめ地域に住む人々とともに考え、有効な手立てを構築していくことを目的とする。</p> <p>【こどものまち事業】 小学生～高校生世代を対象に、疑似的な「まち」を形成し、社会の一員として自立し、社会参画につながる機会を提供し、創造する力や主体性及び社会性を育むもの。 企画段階から子どもたちが主体的に参加し、公共機関や店舗等の運営も子どもたち自身が行い、「まち」の中で働くことで対価を得て「まち」で遊び、楽しみながら社会を体験する。</p>
業歴	<p>2000年6月 任意団体発足</p> <p>2005年7月 NPO 法人格取得</p> <p>2007年12月 こどものまち事業、初実施</p> <p>2014年4月 名古屋市青少年交流プラザ運営事業受託</p> <p>2016年8月 名古屋市子どものまち事業受託</p>

## 【社会的インパクト評価の目的と活用法】

## 《目的》

- ・組織内部の意識の共有  
(当団体で「こどものまち」を行う意味を確かめる)
- ・外部関係者の理解と支援の獲得

## 《活用法》

- ・事業の見直しや改善  
→今後の事業継続、自主事業化
- ・人的、資金的支援の獲得
- ・子ども、若者の社会参画の促進  
→子どもたちの成長や変化が期待できること、成長に有効であることの立証

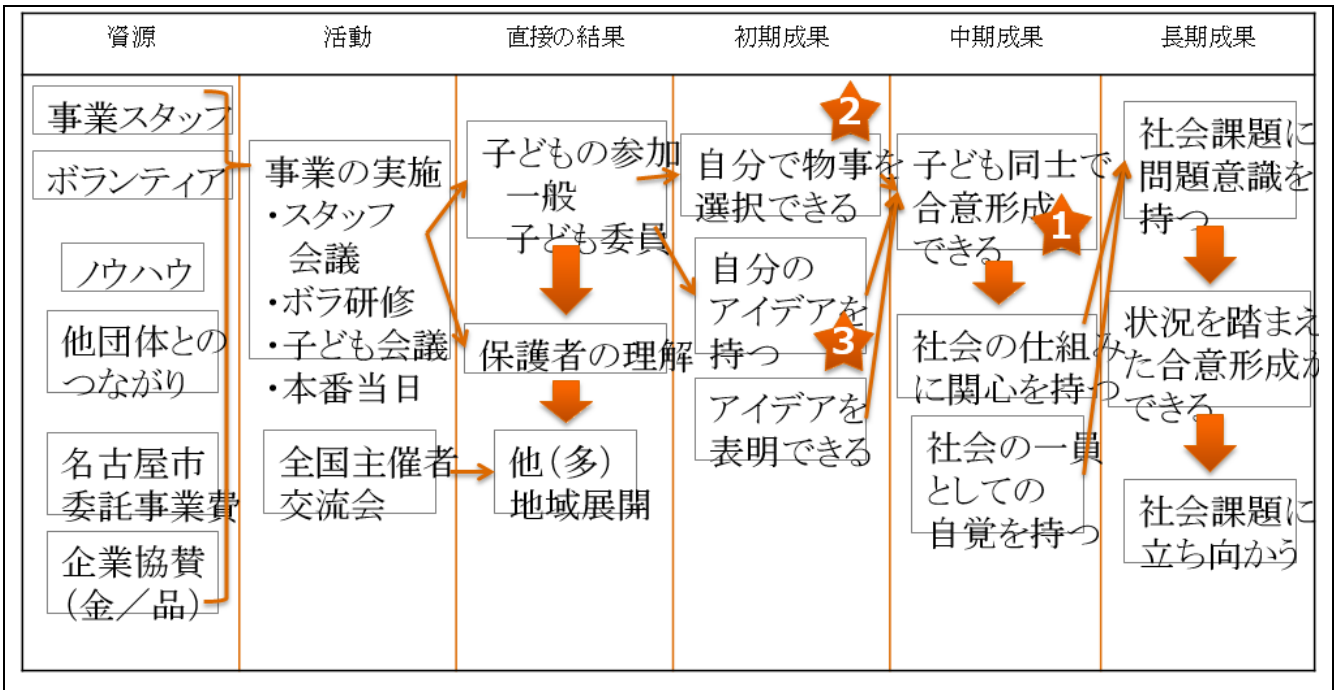
【事業目標】

子どもたちが、将来的に社会課題に立ち向かえる社会をつくる

【受益者】

受益者	重要度	判断根拠
子ども		事業の影響（成果）が長期的に最も大きい
・小学校低学年	◎	子どもたちの日常生活で大きな影響を与える存在
・小学校高学年～高校生世代	○	
保護者	△	
支援者		
・ボランティア(学生/社会人)	×	
・スタッフ	×	
・事業者（協賛企業）	×	

【ロジック・モデル】



掲載されているロジック・モデル等はあくまで社会的企業向け実践研修の中で参加者が作成したものであり、必ずしも社会的企業の公式見解を示すものではない。今後、継続的に見直しを行い、改善していくことが期待される。

【成果指標】

成果	成果指標
<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもが自分で物事を選択できるようになる</li><li>・自分のアイデアを持ち、アイデアを表明できるようになる</li><li>・子ども同士で合意形成できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・出口アンケート調査 [設問]自分で仕事を選び働くことができましたか？ →5段階評価の回答割合</li><li>・Web 事後保護者アンケート調査 [設問]事業参加後に将来の職業について話し合いましたか？ →5段階評価の回答割合</li><li>・こどものまちでの新規起業店舗数</li><li>・支援者による観察評価（定性評価） →発言、作成物の様子</li><li>・新規起業店舗の平均子ども店員数</li><li>・支援者による観察評価（定性評価） →発言、作成物の様子</li></ul>

【ロジック・モデル作成のメリット】

- ・どういった成長段階の子どもたちに対して、どのような活動を提供すれば良いかが分かる。
- ・ボランティア等の支援者に対して、どのような支援を依頼すれば良いか明確になる。
- ・不要な取り組み、必要な取り組みの整理を行うことができる。
- ・継続的に事業を実施できるようになる。